

## 海外安全対策情報（令和2年1月～3月）

### 1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件やショッピングモールでの通り魔事件も発生しています。不測の事態を避けるため、多くの人が集まる記念式典やコンサート、集会等においては十分に注意が必要です。

### 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2020年1月1日から3月31日までのベラルーシにおける犯罪総数は18,735件で、前年同期と比較し11.4%減少しています。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗6,486件（前年比5.2%増）

（うち住宅対象侵入窃盗）1,976件（同増減なし）

イ 公然窃盗314件（同14.0%減）

ウ 恐喝75件（同134.4%増）

エ 詐欺830件（同29.6%減）

オ 暴力犯罪858件（同18.5%減）

カ 殺人及び殺人未遂78件（同8.2%減）

キ 重傷傷害214件（同7.5%増）

ク 強盗16件（同44.8%減）

ケ 強姦及び強姦未遂13件（同51.9%減）

（2）邦人被害事案は報告されていません。

（3）2020年1月～3月における主な被害事案は以下のとおりです(当地の報道から作成)。

ア 1月2日、清掃員が、スヴィスロチ川から死体の一部が入ったスポーツバッグを見つけ、警察に通報した。捜査の結果、1月5日にミンスク市ロマノフスカヤスラボダ通りのアパートで、37歳女性の死体が発見された。捜査委員会は、この事件を殺人容疑で告発し、警察は犯人の捜索を続けている。

イ 1月11日朝、ミンスク市プリティツコヴォ通りのナイトクラブ Re:Public で火災が発生し、170名が避難した。非常事態省の発表によると、6時13分に管理人から通報があり、最初の救急隊は6分後に現場に到着した。ロビーの配電線と天井の舞台装置器具が燃えていたが、消防隊が消し止めた。負傷者はいない。原因は電気照明のショートとみられている。

る。

ウ 1月16日16時40分頃、ブレスト市コメルチェスカヤ通りで爆発があり、167平米のガレージが全壊し、火災が発生した。男性2名および女性1名が負傷し病院に収容され、車両5台が損傷した。原因は調査中である。また同日バラノヴィッチ市レベディナヤ通りの住宅倉庫で爆発が発生し、男性3名が負傷し病院に収容された。爆発現場で非常事態委員会、国家保安委員会、捜査委員会および軍工兵部隊関係者が活動し、その結果、第二次世界大戦中の砲弾2発が発見された。

エ 1月21日、ゴメリ州第71番中等学校で、2017年に児童教育オリンピックで「その年の教師」の称号を受けたことのある47歳の女性教師が、数学の授業中3年生の女児の耳を引っ張って裂傷を負わせた。女児の母親は地区裁判所に対し、女性教師の個人的責任を問うために提訴した。裁判所は、刑法153条により1890ベラルーシルーブルの罰金を言い渡した。なお2019年9月、ゴメリ第15番学校で4年生の男児を脅迫・侮辱した女性教師が解職され、その後大統領の介入により、更に州・市・地区の教育指導者が解職されるという事案があった。

オ 有名大学を卒業して叔父の会社で働いていると称し、「マクシム・フローロヴ」と名乗って22歳のミンスク在住の男が出会い系サイトを開設した。男はサイトを通じ知り合った女性に対し、「自らの健康に問題が生じた」として借金を申し込み、それに応じた19～20歳の女子大学生3人が約4000ドルを彼の銀行口座に振り込んだが返金はされず、更なる借金を申し込まれていた。その後、この男と知り合ったグロドノ在住の女性が同人は詐欺師であると気づき、警察に相談した。その結果、男は拘束の上留置場に送致され、詐欺罪で刑事告発された。

### 3 テロ・爆弾事件の発生状況

なし。

### 4 誘拐・脅迫事件の発生状況

なし。

### 5 日本企業の安全に関する諸問題

なし。

※上述の事案は全体の中の一部の情報です。定期的に報道などを確認し、自身の安全確保に努めてください。